

日本動物看護学会第 59 回例会 動物看護研究勉強会第 9 回例会報告

13:00~15:00 第 1 部

【その研究、報告になっていない??】講師 田村浩美氏 (淀川キリスト教病院ホスピス緩和ケア課
正看護師 保健師 認定動物看護師 関西動物教育研究会理事)

内容 :

1 部 アイスブレーキング 講義前に「看護研究」の印象について kj 法を用いてグループワーク
講義 その研究、報告になっていない??

講義後再度「看護研究」の印象について kj 法を用いてグループワーク
初めに看護研究についての印象を kj 法を用いて書き出しを行なった。

「何から始めればわからない」「難しい」「一人ではできない」「どのくらいの時間をかけてするのかわからない」といった「不安」が大半を占めた。他にも「基礎力」「社会貢献」といった言葉も出ていた。この後に講義を受け、なぜ動物看護師が研究を行うのか、動物看護師のありかた、研究の目指すものといった基礎にあたる部分のご紹介と、研究と報告と演説の違い、原著論文やレビューの違いにも触れた。テーマを決めるためにはクリティカルシンキングが必要で「やりたいこと」ではなく「看護に必要なもの」を選び、看護研究は art ではなく science であることをお話しㄧだいた。

講義後、「看護研究」の印象を再度 kj 法でグループワークを行なった。

講義前は大半が「不安」だったものが「学び」「看護力」「向上心」といった「自己研鑽」が大半を占めた。他には「貢献」「共有」「未来」といった「将来」、「クリティカルシンキング」などが出た。

kj 法は参加者全員が初めてだったが、話し合って情報をまとめていく作業は親密にもなれ、大変有意義な時間となった。

15:10~17:00 第 2 部

【論文を読んで研究に繋げよう！】

あらかじめ準備しておいた論文を読んでその中から 1 つ興味のあるものを選び、自分だったらどのように研究を進めていくかを発表していった。

田村氏からより詳しく研究の進め方やテーマの絞り方などを助言いただいた。

参加者全員が興味を持ったのはアンケートとインタビューそれぞれの利点や進め方であった。

この 1 年で動物看護を研究発表、論文投稿で残したいとそれぞれ決意し、第 8 回例会を終えた。

〈おわりに〉

動物看護研究勉強会は 2016 年に発足され、今回で第 9 回目を迎えました。

講師には動物看護師でもあり人の看護師である田村浩美氏をお迎えし、大変内容の深いものとなりました。また日本動物看護学会編集委員の山下眞理子先生がオブザーバーとして参観いただき、ご意見、助言をいただきました。

参加人数は 4 名と少ない結果でしたが参加者全員が現在の学会で発表されている看護研究内容に疑問を持ち、看護研究を学びたいという意識の高い方ばかりでした。

このご縁を大切に一緒に看護研究に取り組みができればと思います。
初回から継続して当勉強会に対してご理解とご支援を下さっている貴学会にはあらためて感謝申し上げます。

